

SDGs

コミュニケーション
ブック 2020



私たちといっしょに SDGsへの貢献を 考えてみませんか？

SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連に加盟する193カ国の合意のもと採択された世界共通の目標です。SDGsが目指す「持続可能な社会」を実現するためには、行政をはじめ、企業、教育機関、NPO/NGOなどの各種団体、地域社会、そして各個人に至るまで、すべての人々がそれぞれの立場から取り組んでいかなければなりません。私たちリコージャパンでは、経営の中心に「SDGs」を据えて取り組みを進めています。このコミュニケーションブックを通じて、私たちがどのようにSDGsに取り組んでいるかを知っていただき、皆様と共に2030年のゴールに向けて、活動の輪を拡げていきたいと願っています。



リコージャパン株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO

坂主 智弘

SDGs (持続可能な開発目標) とは？

SDGsは、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから構成されています。その内容は、貧困や飢餓といった世界的な問題から、働きがいや経済成長、地球環境やエネルギー問題といった日本でも身近な問題まで幅広くカバーされています。そして、「誰一人取り残さない (Leave no one behind)」をテーマに、世界が一体となって取り組むことが求められています。



リコージャパンと関わりの強い目標

リコージャパンでは、「事業を通じた社会課題解決」「経営基盤の強化」の2つの領域で7つのマテリアリティ(重要社会課題)を特定し、「社会貢献」においても、SDGsの重点領域を設定して取り組んでいます。



持続可能な未来を目指して

リコージャパン

SDGs活動の歩み

2015



SDGsの採択

1 リコージャパン
48支社で
SDGs勉強会を開催

2016
7月

動画配信で
より多くの
社員に
拡大!

SDGs
とは...

2 リコージャパンが
マテリアリティとSDGsを
紐づけ

2017
4月

3 SDGsパブリック
の着用を開始!

2018
4月

4 SDGs強化月間
(第一回)を実施

2018
10月



5 SDGsキーパーソン
全国から92名誕生

2018
11月

7 SDGs強化月間
(第二回)を実施

2019
6月



SDGsを
社内外へ
普及させる!

中小企業の
課題解決に貢献



6 リコージャパングループ全体で
サステナブルe-ラーニング
を実施!

2018
12月

リコージャパン社員の
SDGs認知度
99%
まで達成!

リコージャパン主催 グローバル
SDGsアクション月間を実施

社会課題と
企業への期待



働きがいも
経済成長も



12 SDGsキーパーソナル
2020年5月 243名に増加!

2030

SDGsの
目標達成へ!

17 個人言評価へ
2020年4月
SDGsポイントを
組み込み

新
10 マテリアリティ発表!
2020年3月
『経営基盤の強化』が加わる

ステークホルダー
エンゲージメント
共創
イノベーション
ダイバーシティ
& インクルージョン



ESG目標を設定



持続可能性を
測るものさし

9 SDGsと経営の
2020年2月
同軸化をスタート!



省エネ性能で
CO2削減



1台売ると
1本松を植えるよ

8 「日経SDGs経営大賞」で
2019年12月
リコーが『環境価値賞』
上位3社に入賞!

専門所屋上に
SOLAR POWER



脱炭素



気候変動への取り組み

生物多様性への取り組み

チョウの棲む里づくり活動



SDGs キーパーソン座談会

リコー日本の各支社には、SDGs貢献活動を中心となって推進する「SDGs キーパーソン」がいます。2019年度はリコーグループとして、「日経SDGs経営大賞2019 環境価値賞」を受賞しましたが、その原動力となったのもSDGs キーパーソンの存在です。今回は、各地域で活躍する3名に自身の取り組みについて語っていただきました。

(2020年5月28日オンラインにて実施)



販売事業本部 栃木支社
LA営業部
まちづくりグループ リーダー
仲野 順子



販売事業本部 長野支社
ソリューション営業部
公共ソリューショングループ
山本 修一



経営企画本部
コーポレートセンター
関西ビジネスサポート部/兵庫支社
村田 和子



博報堂DYホールディングス
CSRグループ推進担当部長

川廷 昌弘 氏

環境省SDGsステークホルダーズ・ミーティング構成員、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンSDGsタスクフォース・リーダーなどを務めるSDGs推進を代表する一人。リコー日本SDGs キーパーソン研修の講師でもある。

川廷 SDGs キーパーソン研修に続き、お声がけいただきまして光栄です。今回は、「リコー日本のSDGs キーパーソンとはどんな存在なのか?」について迫ってみたいと思います。まずは、皆さんが選ばれたきっかけについて教えてください。

仲野 私は栃木支社で「まちづくりグループ」という営業チームに所属しています。ここは、2018年10月に、全国の支社で初めて立ち上がったグループで、地域活性化をビジネスにつなげるという役割を持っています。ですが、それまで私はOA機器の営業担当でしたので、具体的にどういったことをやればいいのかイメージできないでいました。

ちょうど同じ頃、全社でSDGs キーパーソンの募集をしまして、「私のやるべきことは、もしかするとSDGsに貢献していくことと近いのかな?」と直感的に思い、自分から立候補することにしました。

山本 私がSDGs キーパーソンに選ばれたのは2018年の秋頃だったのですが、それまではソリューション推進部の責任者として、拡販のためのプロモーション企画などの仕事をしていました。そのような時にSDGs キーパーソンの募集が長野支社長宛てにありまして、「支社内で影響力を及ぼせる人」ということで、候補に入れていただいていたようです。

実は、その半年後には役職定年が決まっていたので、これからは裏方として若手社員のバックアップをしていこうかなと考え

ていた時期でした。SDGsに関する知識はほとんど無かったのですが、シニア世代の活躍できるステージとして勧めてくださったので、引き受けてみることにしました。

村田 私は関西エリアで人事・総務の仕事を担当しています。SDGs キーパーソンになる直前までは事業所、建屋の管轄が主な業務内容でした。2018年1月に大阪・堺筋事業所の大きな移転プロジェクトがあったのですが、それがちょうど終わった頃で、ほっとひと息していた時期でした。突然、当時の関西地区の責任者から呼ばれて、「村田さん、“SDGs姐さん”と呼ばれるようになって!」と直接指名を受けたんです。その時は、「えっまさか私が?」と、とても驚いたことを覚えています。

川廷 皆さん色々な背景をお持ちで、リコー日本が持つ人材の多様性と奥行きを感じます。次に、SDGsを広めていくために、どのような活動を進められてきたか教えてください。

村田 私は、まずは社内への浸透活動に力を入れました。SDGsを全社として取り組むためには、社内の皆さんに認知していただくなくてはなりません。そこで、リコー日本としての姿勢を伝えるために、社長のメッセージをしっかりと理解してもらうことから始めました。私を含めてSDGs キーパーソンは3名いたのですが、朝礼・夕礼の時間などを利用して、事業所にいる約350名全員のところへ説明に行きました。

その後は、これも全員に「SDGs宣言カード」を書いてもらいました。これは、「買い物にはエコバッグを持参します」とか「マイボトルを持ち歩きます」など、身近なことで良いので“自分ごと化”してもらおうことが狙いです。

川廷 SDGsの17のゴールは相互に関わり合っていて、包括的に考えることが大事です。村田さんは、普段のお仕事でオフィスの管轄をされていて、立体的・構造的な理解が得意な方ですから、そういった素質が活かされているのかもしれないね。山本さんはいかがでしょう。

山本 長野県は、2019年に入って2つの大きな動きがありました。1つめは、「官民連携によるSDGs普及促進事業者の公募」です。長野支社では、県内イベントを活用したSDGs普及活動をテーマにした企画を提案したところ、無事に採択され、「長野県×リコージャパン信州SDGs普及促進実行委員会」が発足し、活動をスタートすることができました。2つめは、「SDGs推進企業登録制度」というものが2019年4月に創設され、これにも申請して登録が認められました。

長野支社では、こうした自治体との連携をベースに「長野県SDGs推進企業 実践事例フォーラム」さまざまなイベントを企画し、SDGsの普及に取り組んでいます。

川廷 自治体と組んで地域の企業を巻き込むことができたというのは、非常に意義のあることだと思います。日本では「官民連携」という言葉がよく使われますが、どちらかというと現代は、「民」が自分たちの事業で収益をあげていくために、「官」と一緒にやっていくという考え方が主流です。そのモデルケースを見せていただいたような気がしました。仲野さんはいかがでしょう。

仲野 栃木支社でも、地域活性化のお手伝いをしながらビジネスにつなげるという特徴的な事例があります。宇都宮市で立ち上げた「まちづくりアプリ」です。栃木県では今、地域コミュニティが希薄化して地域の担い手がないという問題を抱えています。そこで、もっと市民に地域コミュニティに参加してもらうきっかけが作れないか、という発想から生まれた事業です。このアプリには、「ボランティアポイント」というものがあり、地区のボランティアにエントリーし、実際に参加することで貯まっています。貯まったポイントは、施設の利用券やバスカードなどに交換でき、それを使って街に出るいただくことによって、さらなる賑わいが生まれるといった循環型システムになっています。

川廷 まさに事業そのものがまちづくりに貢献する形になっていますね。リコーの技術力が活かされているところも素晴らしい

ですし、地域活性化のアイデアや引き出しの多さという部分でも驚かされます。

SDGsが、これまで課題意識を持っていたのに行動できなかった人たちの背中を押してくれたり、人と人をつないでくれることで、新たなビジネスの可能性が生まれていますね。その中で、SDGsキーパーソンである皆さんの存在が良い起点となっているなという印象を受けました。最後にひと言ずつ、今後の抱負をいただければと思います。

村田 SDGsは、「社会貢献でお金儲けするなんてけしからん」というものではなく、「SDGsを使ってどんどん事業を進めてください、そうすることによって活動の輪が広がっていくんですよ」というところに良さがあると思います。ですから、今後もビジネスにつながっていくような支援ができればいいなと思います。

山本 長野県は他県に比べて、SDGsの取り組みが推進されているのかなと思いますが、まだまだ社内浸透の面で課題を持たれているお客様が多いように感じます。そういったお客様のお手伝いができるように、今後も勉強を続けていきたいと思っています。そして、成功事例を増やしていったら、他の市町村にも展開していければと思います。

仲野 私は今後もまちづくりを通してSDGsにアプローチしていきたいです。新型コロナウイルスの影響で世の中の価値観も大きく変わりつつあり、これまで求められていた「賑わい」というのも、ソーシャル・ディスタンスや衛生面に配慮した形で求められる時代に突入しました。また、働き方も多様化する中で、地方都市だからこそ担える役割もあると思います。そういった時代の流れとともに、リコージャパンとしてできることを模索しながら貢献できればいいなと思います。

川廷 皆さんありがとうございました。

座談会を終えて

川廷 昌弘

皆さんSDGsをご自身なりにマスターされつつありながら、同時に多くの人を巻き込んで、主体性を持って取り組まれていることがよくわかりました。私から見ると、皆さんは明らかに“地域のSDGsキーパーソン”だなと思います。会社からミッションとして与えられたものを、ひとつのやりがいとして昇華されているという姿を拝見して、仕組みとしても素晴らしいものと感じました。今後のご活躍を期待しています。

この記事はダイジェストバージョンです。
フルバージョンは、『リコージャパン サステナビリティレポート2020』
でお楽しみください。



特集

事業とSDGsを同軸化し、 お客様と共に取り組む

(左手前から時計回り)
株式会社コントレール 代表取締役社長 上津遊 正樹様
取締役営業本部長 薬本 晃孝様
リコージャパン 広島支社 広島S&S部 江郷成俊
広島第一営業部 アシスタントマネージャー 和田 隆正

“SDGsと事業の達成を同軸で捉える”とは、お客様に製品・サービスを提供することが即ち社会課題解決となるということです。また、SDGsの達成には多くの人や企業が共に取り組んでいくことが不可欠です。リコージャパンでは、SDGsに貢献する製品・サービスを提案するだけでなく、導入実績に応じたマングローブの植林、さらに一連の貢献内容をお客様へご報告する活動を展開し、SDGsの輪を広げています。

SDGs貢献度を見える化し、 業績目標とSDGs目標を一体化して推進

リコージャパンでは、業績目標をSDGsの貢献目標に置き換えて活動を推進しています。ソリューション営業部を統括する土路生は、これまで社内を中心に進めてきたSDGsへの取り組みを、お客様と協働する活動として進化させていくためには、貢献目標や貢献度を具体的な数値で表し、身近なものに落とし込んでいく必要があったと



広島支社
ソリューション営業部 部長
土路生 克芳

話します。

「環境性能の高いリコーの複合機を販売することで、お客様の元でどのくらいCO₂排出量を削減できるかを算出し、販売台数目標をSDGs貢献目標に置き換えています。そして、業績目標イコールSDGs貢献目標として評価基準に盛り込み、日々の業務とSDGs推進を一体化しています」

目標に対する進捗は、SDGsキーパーソンが毎月集約して全員にメールで配信しています。業績とSDGsが一体化したPDCAのサイクルを回していく上で、欠かせないのがお客様への報告だと土路生は話を続けます。

「広島支社ではアフターフォローの一環として、複合機導入がSDGs貢献につながっていることをご報告する活動を徹底しています。貢献の印となる書面を持参して報告し、お客様との新しい関係づくりや満足度向上につなげていきたいと考えています」

お客様と目標・貢献内容を共有 一歩進んだ信頼関係の構築へ

リコージャパンでは、複合機の販売台数に応じて東南アジアにマングローブの植林を始めています。まず、2020年2～3月で計1万本植林しました。マングローブはCO₂吸収量が高いことに加え、陸上では鳥類・哺乳類の、水中では海洋生物の生息域となり、そこで育まれる自然の恵みは地域社会の糧にもなります。導入いただいた複合機がこうしたグローバルな社会課題解決につながっていることを、広島支社では製品納品時にCE（カスタマー・エンジニア）からお客様にご報告しています。サービス部門を統括する上原は、最初は不安もあったと振り返ります。「これまでの取り組みにより支社内にSDGsは浸透していましたが、お客様へのご報告となると、より深い知識と実践的な研修が必要でした。そこでSDGsキーパーソンによる勉強会を2～3週間かけて実施。勉強会を重ねるごとに知識はもちろん、意識も高まっていったように思います。広島支社オリジナルのQ&A集も作成し、一人ひとりが責任と自信をもってご報告できるように努めています」

長くお取引のあるお客様でも、これまでSDGsについて対話する機会は多くありませんでしたが、今回改めて

お伝えすることで一歩進んだ信頼関係が構築されつつあります。

「お客様からは、『世界共通の課題解決に貢献できて嬉しい』、『SDGsについてもっと教えて欲しい』といった声を多くいただいています。SDGsという目標を共有することで、お客様との距離感が近くなったようです。さらに、『この機会に自社の活動も強化していきたい』という経営者の方もおられ、私たちの活動がお客様企業の意識改革にもつながっていたらとても嬉しいです」

リコージャパンでは広島支社をはじめ、全国の支社で事業とSDGsの同軸化を進めています。“誰一人取り残さない世界”の実現のため、お客様とのさらなる協働に向けて邁進していきます。



広島支社
広島S&S部 部長
上原 幸二

お客様へのご報告事例:株式会社コントロール様

機械商社として、各種機械部品の販売、プラント・加工事業に加え、次世代商品事業を展開されている株式会社コントロール様。1974年の創業以来、地域社会との調和や従業員の働きやすさを大切にしながら、事業の拡大、成長を実現されています。

今回、複合機を導入いただいたことを機に、マングローブ植林のご報告をすると共に、リコージャパンが取り組むSDGsの活動についてご紹介させていただきました。



広島市内にある可部工場

VOICE

生産性の向上とSDGs貢献を両立する提案に期待しています



株式会社コントロール
代表取締役社長
上津遊 正樹 様

リコージャパンからお話を伺ったことをきっかけに、改めてSDGsへの関心が高まりました。当社もこれまで地域社会への貢献活動には取り組んできましたが、環境問題も社会貢献も一企業だけでできることには限界があります。ですから、複合機の導入を通じて間接的にSDGsへの貢献ができたことはとても嬉しく思います。

また、自社内でSDGsを浸透・推進していくためには、経営層の高い意識が不可欠です。リコージャパン広島支社では、SDGsセミナーの開催を検討されていると伺い、大変興味を持っています。今後も日々のお取引の中で、生産性の向上とSDGsへの貢献を両立できるような提案をいただけることを期待しています。



一人ひとりのメッセージが木の葉になって表示

1

SDGsアクション宣言

東京・大阪・名古屋で開催した展示会の会場で、デジタルメッセージボードを用いて、来場者1,300名以上にSDGsアクション宣言をしてもらいました。関心の高いゴールを選んでアクションを書いてもらい、宣言数に応じてNPOへ寄付しました。

2019年度の

主な取り組み

リコージャパンが全国各地で行ったSDGsへの取り組みの一部をご紹介します。



東京大学の学生向けにSDGsの講義

自治体や学校、企業団体などで、セミナー講師として招かれるSDGsキーパーソンも増えています。

2

SDGsセミナー



青森のコワーキングオフィスでSDGsセミナー

3

SDGsの意識啓発



SDGsのゴールを階段に貼るアイデアは、リコージャパンの支社だけでなくお客様や海外拠点にも広がりました。

自分たちならではの貢献ゴールを
掲示した和歌山支社

4

社員によるmySDGs宣言

社員一人ひとりが自分のSDGsアクションを宣言する活動も、じわじわと広がっています。



岐阜支社では、
顔写真入りで貼りだしたり、
デジタル表示させるなどの工夫も



5

共創イベントへの参画

さまざまなイベントでSDGsを掲げています。3月8日の国際女性デーには、NHKエンタープライズのプロデューサー・堅達京子氏とトークライブを実施。YouTubeで配信されました。



HAPPY WOMAN FESTA 2020
トークセッション

RICOH

imagine. change.

●表紙イラスト

リコージャパンはパラリンアートのプラチナパートナーとして障がい者アートを応援しています。

作品テーマ：「サステナビリティ」 by koto

作者の想い：「たくさんの人を描きました。いろんなサステナブルな活動を楽しんでみつけてくれると嬉しいです」

サステナビリティレポート2020



私たちの活動詳細を WEB サイトでご紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/csr/report/>



リコーはお客様満足度No.1

J.D. パワー 2019年

カラーレーザープリンター顧客満足度2年連続No.1

ITソリューションプロバイダー顧客満足度5年連続No.1

<独立系/ユーザー系/事務機器系SIer>

J.D. パワー 2018-2019年カラーレーザープリンター顧客満足度調査。

2019年調査は従業員5名以上の企業2,549件の回答による。*評価対象はリコー

J.D. パワー 2015-2019年ITソリューションプロバイダー顧客満足度調査。

2019年調査は従業員50名以上の企業3,340件からの回答による。*評価対象はリコージャパン

jdpower-japan.com



会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

お問い合わせ先

リコージャパン株式会社

経営企画本部

コーポレートコミュニケーション部

〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2 芝公園ファーストビル

E-mail : zjc_rjsdgs@jp.ricoh.com

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/>